



研究者名※	松梨 久仁子	学位※	博士(学術)
所属※	家政学部 被服学科	職名※	教授
連絡先	matunasi@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/read0029327		
研究分野※	複合領域・生活科学・衣・住生活学		
研究キーワード※	被服材料		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・車両用座席シートの審美的快適性の研究—白色化防止座席シート開発への提言—(科学研究費・挑戦的研究(萌芽)・分担研究者、2019年～2021年) ・肌トラブル回避を目指した肌にやさしい低刺激拭き用素材と適切な清拭法の提案(科学研究費・基盤C・代表研究者、2018年～2020年) 		
社会貢献・産学官連携活動等	(公財)としま未来文化財団, 文化カレッジ(南大塚地域文化創造館)講座「はじめての組ひも –やさしい組ひも体験とその魅力を知る–」(2019)		
受賞歴	日本繊維製品消費科学会奨励賞受賞(1995) 日本女子大学教員研究奨励金受賞(1997) 日本繊維製品消費科学会学会賞(年度論文賞)(2014) 日本繊維製品消費科学会学会賞(論文賞)(2016)		
研究領域	被服材料	(SDGs)	
研究テーマ※	組紐に関する研究、清拭用素材の肌への刺激、縫製に関する研究		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】被服材料学の立場から、糸や布の力学的特性を中心に、実際の衣服や繊維製品の作製や取り扱いなどをテーマとして取り上げ研究を行っている。</p> <p>1. 組紐に関する研究:組紐はその構造に由来する優れた力学的特性を持つことから、帯締めだけでなく、靴紐やブラインドの紐、産業資材など様々な用途がある。本研究室では伝統工芸としての手組の組紐に着目し、組紐作製条件が組紐の外観や力学的特性に与える影響について検討し、“職人の長年の経験と勘”の数値化を目指す。</p> <p>2. 清拭用素材の肌への刺激:肌に付着した汚れや水分を“拭き取る”という行為は日常的に行われている。しかし、場合によってはその刺激によって肌トラブルを引き起こすことがある。そこで、どのような素材が肌に優しいのかについて検討している。</p> <p>3. 縫製に関する研究:衣服を作る際には、必ず縫製工程が必要となる。縫製不良により衣服の外観が損なわれたり、衣服としての十分な機能が得られないことがある。そこで、各種ミシンについて縫製加工における諸問題(シームパッカリング、縫いずれ、地糸切れ、縫い目滑脱など)の技術的解明を行っている。</p> <p>【応用例、研究の展望】</p> <p>1. 組紐の製作条件を系統的に変化させて実用的で有用なデータの構築することで、組紐作製に必要な組糸の消費長や作製する組紐の外観や力学的特性などの予測が可能になると考えている。</p> <p>2. 十分な結果はまだ出せていないが、甘よりの糸使いのパイル、カットパイルは肌刺激が少なく、湿潤することで摩擦刺激が低減できることが明らかとなった。今後は、肌への負荷量に対応させた摩擦刺激に関する評価法を検討しつつ、低刺激拭き用素材と適切な清拭方法を明確にしたい。</p> <p>3. 縫製工場の実際の現場では様々な縫製不良が生じており、その縫製不良は返品やクレームにつながる。最近では素材が多様化しており、その素材ごとの適切な縫製条件をシミュレーションに応用できる。</p> <p>【研究方法の特色】</p> <p>研究設備: KES各種装置、その他、繊維製品に関する様々な測定機を保有しており、力学的特性の測定が可能。</p>		
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・松梨久仁子他:「組紐作製時のおもりバランスが組紐の外観と力学的特性に与える影響」, Journal of Fiber Science and Technology, Vol.76, P296～304(2020) ・松梨久仁子他:「高速度カメラによるすくい縫いミシンの縫製下における生地挙動の観察と縫製方向によるすくい量の変化」, 繊維製品消費科学, 56巻, P675～682(2015) 		
共同研究・外部機関との連携への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・生地特性から見た衣服を中心とした繊維製品の特性・性能評価 ・繊維製品の繰り返し着用(使用)、洗濯などの消費過程における劣化に関する検討 		